

東北大学におけるブタの飼育管理方法の紹介と ブタを用いた手術トレーニングセンターにおける施設の役割

東北大学大学院医学系研究科附属動物実験施設

末田 輝子

近年の譲渡犬の実験動物転用禁止や再生医療分野の急速な発展に伴い、ブタの利用が高まっている。東北大学でも徐々にブタの利用が増え、イヌの検疫室をブタ飼育室に転用するなどしてブタの増加に対応をしている。しかし、汚い、臭いなどの世の中のブタに対する偏見は強く、イヌほどにその習性は理解されていないように思う。演者は、今年の春からブタの飼育管理を担当することになり、ブタのユニークなキャラクターに魅了されてしまった。ブタにも学習能力があり、人に良くなつき、性質も温順である。また、イヌに比べ鳴き声が穏やかである。従ってイヌと同様に、「習性」や「個性」に合わせた、更に福祉に配慮した飼育管理が必要と考える。この事が結果的に、実験者とブタのストレスを軽減することに役立つ。本発表では短期間で馴化を可能にする効果的な飼育管理方法を紹介する。

また、東北大学病院に新設される手術トレーニングセンターではブタが用いられるが、このプロジェクトにおける施設の役割を紹介する。今回の発表により、ブタの存在を身近に感じて頂ければ幸である。

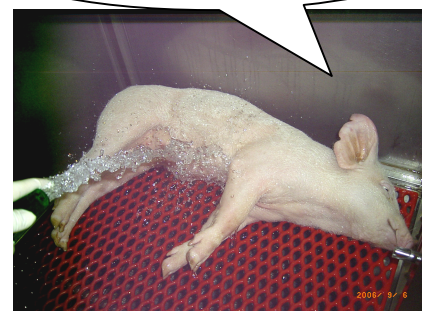
ブタの福祉に配慮した飼育管理のポイント

- 1 温水シャワーで体をきれいにする
- 2 スキンシップを心がける
- 3 ブタに話しかける
- 4 体重をコントロールする
- 5 探索行動を満足させる

手術トレーニングセンターでの施設の役割

- 1 ブタの馴化
- 2 筋肉注射による沈静
- 3 気管挿管
- 4 吸入麻酔
- 5 術後の処理

気絶するほどウレシイ☆



効果抜群の温水シャワー



気管挿管の練習